

令和5年度
埼玉県新たな地域クラブ活動実証事業
地域ミーティング（成果報告等）
令和6年1月26日（金）：東松山地方庁舎

吉見町立吉見中学校との連携事業その4

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ事務局
武蔵丘短期大学健康生活学科
健康スポーツ専攻 助教 島田里緒菜

本日の内容

1. 令和5年度実証事業の概要
 - ①対象（関係する地域、学校）
 - ②NPO法人武蔵丘スポーツクラブ
2. 令和5年度実証事業の実際
 - (1) 目的
 - (2) 短期大学学生との合同練習 活動内容
 - (3) 短期大学学生との合同練習 活動場所
 - (4) 短期大学学生との合同練習 指導者
 - (5) 短期大学学生との合同練習 経費負担
 - (6) カヌー教室
3. 実証の結果
 - 生徒、顧問、短期大学学生、短期大学監督、保護者のアンケート
4. 課題

1. 令和5年度実証事業の概要（対象）



吉見町 総人口：17,859人

- 世帯数：7,924世帯
- イチゴが有名



吉見町立吉見中学校

開校65周年

生徒数359人

運動部：野球、サッカー、卓球
ソフトテニス、バドミントン、
バスケットボール、陸上競技

武蔵丘短期大学創立33年

男女共学（定員320名）

健康生活学科

健康栄養専攻（栄養士）

健康スポーツ専攻

（中学校保健体育教員、

アスレティックトレーナー サッカーC級コーチ）

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ

設立 平成23年5月9日

代表理事 福島 邦男(ふくしま くにお):武蔵丘短期大学健康生活学科健康マネジメント専攻教授

会員:吉見町民他 79名

活動内容: 武蔵丘短期大学の全面協力のもと、地域自治体と連携して、スポーツ活動や健康づくりを中心に活動している。短期大学の施設、人材を活用してクラブの教室を運営するとともに、地元自治体の委託事業を受託し、毎年10人以上の教員と述べ100名を超える学生ボランティアが活動に参加している。

- ①定期教室(健康ヨガ教室週3回、骨盤ストレッチ教室月2回、女子サッカーチームシンシア週4回)
- ②子どもプール教室(7, 8月):9回
- ③吉見けやき保育所運動指導(月2回)、運動能力測定(春と冬2回)
- ④吉見町生涯スポーツ事業(親子アクティブ教室(5回)、かけっこ教室(2回)、鉄棒・跳び箱教室)
- ⑤吉見町健康づくり事業(介護予防運動、脳トレ、ノルディックウォーキング)

2. 令和5年度実証事業の実際

(1) 目的：

- ①一町一中学校の事例となる
- ②総合型地域スポーツクラブの関わり方の事例となる
- ③短期大学、大学の関わり方の事例となる

以上の観点から実証事業を行う

(2) 活動内容：

①短大生との合同練習

バスケットボール部（女子12名） 4回12月2日、23日、1月20日、2月17日

陸上競技部（男3女1計4名） 3回 12月16日、1月13日、2月10日

サッカー部（男子13名） 6回11月18日、12月2日、9日、1月13日、20日、2月3日

②部活別スポーツ栄養指導3回

③野外活動：カヌー教室（男子1名）（1回：部員以外の参加可）11月19日（日）

(3) 活動場所 武蔵丘短期大学
体育館、グラウンド、フットサル場（人工芝）
サッカー場（天然芝）
カヌーリゾートたまよど



(4) 指導者（短期大学教員：有資格者）と補助者（強化部活動）



武蔵丘短期大学 女子サッカー部
田本 育代 監督

日本サッカー協会公認
A級コーチ ライセンス



武蔵丘短期大学 女子サッカー部
島田 里緒菜 コーチ

日本サッカー協会公認
C級コーチ ライセンス

川井 明 (かわい あきら)

公財) 日本バスケットボール協会公認Bコーチ
公財) 日本スポーツ協会コーチデベロッパー



辻 将也 (つじ まさや)

公財) 日本陸上競技連盟公認コーチ 3



(5) 経費負担

有料 (500円) での参加 保護者や中学生の理解が得られるか？

(1) 根拠：指導者謝金

時給2,000円×2時間=4,000円の指導料を得るために
最少でも500円×8名の参加が必要になる。

月2回で1,000円、月4回で2,000円の保護者の負担感
今まで無償で指導してきた指導者の違和感

(2) 経済的困難家庭への補助のあり方



(6) カヌー教室 自然体験

実施日：令和5年11月19日（日）

場所：たまよどカヌーリゾート

内容：薪割、火起こし体験

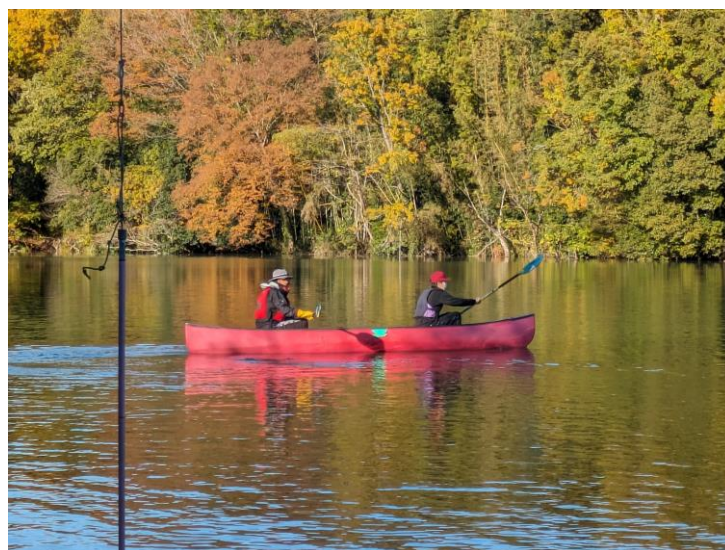
カヌー操船技術練習とカヌーツアー

- ① 準備運動後にライフジャケット装着（正しくつけているかの確認方法）
- ② 陸上でカヌーに乗り、操船のポイント、落ちる姿勢の確認、落ちるのを防ぐ方法、落ちた時の助けをもらう方法を確認
- ③ 乗船、下船の方法の確認
- ④ 湖上に漕ぎ出て、前進、後退、停止、方向転換の練習
- ⑤ ツアーに出発（天候が良かったので上流へのぼり、下流への下りの両コース110分
 - ・ 動植物を観察したり、滝を見に行ったりした



カヌー教室

指導者
福島 邦男（ふくしま くにお）
キャンプディレクター1級



3. 実証の結果 生徒、顧問、参加学生アンケート

サッカー生徒・顧問

1. 感想

思った以上に強かった。個人個人の動き、連携、声基礎ができていた。

体の使い方など勉強になった。

レベルの違いを感じた。

★大学生の技術の高さに圧倒され刺激になった。

芝のグラウンドで練習できることがモチベーションにつながる。

2. 学びたい技術

①パス（正確な、クロスボール）

②トラップ

③ポジショニング

★パスコントロール

サッカー学生・監督

1. 感想

①良い点：スピードが速い、パスをつなげている

②改善点：試合中の仲間同士の言葉かけ

③中学生が対戦相手でプレッシャーもあったが、自分たちらしくプレーできた。

★チームとして戦えていない点が多々あった。

2. 中学生に教えたいこと（技術面、フィジカル面）

①チームで戦うこと、チームワーク

②足元の技術

③トラップの質

★サッカーの理解を深め、スキル、フィジカルの必要性を感じてほしい。

★仲間、用具、環境への感謝の気持ちやチームワークを伝えていきたい。

保護者アンケートから（サッカー）

1. 感想

楽しくできていた。

レベルが高かったので勉強になる。

いろいろな経験ができる。

2. 学びたい技術

ボールコントロール

体幹とメンタル

守備

3. サッカー全般

取り組み姿勢（あきらめない、精神的な強さ）

4. 次回参加させたいか

参加させたい 7

理由：学べるところがたくさんある

芝のグラウンドなど環境がよ

い。

近い。

考えさせる指導が期待できる。

5. 500円の参加費

適当だと思う 6

あまりかけないで欲しい 1

4. 見えてきた課題

1. 中学校と大学のスケジュール調整
(年間計画との調整、前年度に次年度の計画を立てる必要性)
2. 有料(500円)での参加 保護者や中学生の理解が得られるか?
3. 事故対応 手順(フローチャート)、連絡方法(保護者、中学校、短期大学)、スポーツ安全保険
4. 大学側としての課題
リーグ戦などの試合や記録会のピーク時の対応
施設使用料、管理運営の担当
運動部活動指導者や運動部員の理解(今回は協力的)
要望の種目に対応できない場合の対処(大学連携体TJUPなど)
5. 地元や近隣市町との連携
行政(教育委員会)、スポーツ少年団、チーム、スポーツ協会

事故対応について

事例：2回目のサッカーのゲーム中に中学生同士の接触事故が発生

対応：①救急車の手配（大学の対応手順に従った）

→たまたま会場にいた保護者が同乗

②短大への連絡（スポーツクラブ職員から）

③入院、手術が決まる→状況の把握に時間がかかり、教頭へ連絡できたのが、夜になった（スポーツクラブ職員から）

④翌月曜日に保護者と連絡を入れ、今後の入院、手術のスケジュールを確認、スポーツ安全保険について中学校と保護者に文書と口頭で説明

⑤翌土曜日の練習日に短大サッカー部員がお見舞いの色紙と動画を作製して、顧問に渡す

⑥翌週、けがをした本人と保護者が短大女子サッカー部の練習場を訪問

⑦その後は通院を続けながら、短大での練習にも顔を出し、リハビリの運動などを行っている